1	**理念・方針 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	1） 公益財団法人東京YWCA社会福祉事業部として、キリスト教を基盤とした一人ひとりを大切にする考え方 2） 学童クラブを第二の家庭として、子どもにとって安心安全な居場所とする 3） 保護者が安心して子どもを預けられるように信頼関係を築く 4） 職員が安心して働くことができ、仕事と生活が充実するような場とする 5） 学校や地域と協力して子どもを見守り育むことができる関係性を築く
2	**期待する職員像 （関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	小さき弱き存在としての子どもに手を差し伸べ、成長を支援することができる人。 保護者や同僚など、誰をも差別することなく、平等に対応できる人。 子どもの個性を尊重し、自主性を重んじ、子どもの意見に耳を傾けて行動できる人。 子どもが挑戦したり、感動したり、喜んだりすることに寄り添える大人。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	常勤職員や資格を保有する非常勤職員に、学童クラブの役割を認識して、子どもの成長を支援することに努力してほしい。 全職員に、子どもに対応するのに役立つ能力や技術を身に着けるよう研鑽を積んでほしい。 常勤職員には、非常勤職員が能力を活かせるように役割を考えて仕事配分をし、また職員自身も成長するように見守ってほしい。

〔利用者調査：学童クラブ〕 令和7年度

《事業所名：調布市立わいわい学童クラブ》

調査対象	調査日現在、当事業所の利用登録者総数である82名を調査対象とした。回答者の年齢構成は、1年生9名、2年生22名、3年生19名、4年生5名、5年生6名、無回答8名であった。
調査方法	事業所と連名の依頼文を同封し、事業所から配布してもらうアンケート調査を実施した。アンケートは利用者に直接用紙を渡し、封をして提出してもらった。

利用者総数 82

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	82	0	82
共通評価項目による調査の有効回答者数	69	0	69
利用者総数に対する回答者割合（%）	84.1	0.0	84.1

利用者調査全体のコメント

回答者の属性は、「利用者本人」が100．0%であった。
総合的な満足度に関する調査の結果は、対象者の88．5%が「よい」または「ややよい」と回答し、「どちらともいえない」が7．2%、「無回答」が4．3%であり、大変高い満足度が得られている。
項目別では、＜生活について＞に関する5設問は2設問において、大変高い満足度であった。特に「おやつの時間の楽しさ」では、85．5%の大変高い満足度が得られている。
＜安心・快適性＞に関する4設問は1設問において、大変高い満足度であった。「けが・体調不良時の対応」では、88．5%の大変高い満足度が得られている。
＜あなたを大切にしてくれているか＞に関する2設問は全設問で、概ねの利用者が満足とする回答を得られている。
＜嫌なことや、してほしいことについて＞では、「困ったり、してほしいこと」は、概ねの利用者が満足とする回答を得られているが、「職員以外への相談の案内」については、さらに高い満足度が望まれる結果であった。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1．学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	58	9	1	1
「はい」が84．2%、「どちらともいえない」が13．0%、「いいえ」が1．4%、「無回答・非該当」が1．4%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
2．職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	45	20	0	4
「はい」が65．2%、「どちらともいえない」が29．0%、「無回答・非該当」が5．8%であった。自由意見は特になかった。				
3．おやつの時間が楽しいひとときになっているか	59	10	0	0
「はい」が85．5%、「どちらともいえない」が14．5%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	42	18	0	9
「はい」が60．9%、「どちらともいえない」が26．1%、「無回答・非該当」が13．0%であった。自由意見では、「話さない」という声が聞かれた。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	54	8	0	7
「はい」が78．3%、「どちらともいえない」が11．6%、「無回答・非該当」が10．1%であり、高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	44	21	1	3
「はい」が63．9%、「どちらともいえない」が30．4%、「いいえ」が1．4%、「無回答・非該当」が4．3%であった。自由意見は特になかった。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	50	12	1	6
「はい」が72．5%、「どちらともいえない」が17．4%、「いいえ」が1．4%、「無回答・非該当」が8．7%であり、高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	61	4	1	3
「はい」が88．5%、「どちらともいえない」が5．8%、「いいえ」が1．4%、「無回答・非該当」が4．3%であり、大変高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	50	13	0	6
「はい」が72．5%、「どちらともいえない」が18．8%、「無回答・非該当」が8．7%であり、高い満足度であった。自由意見は特になかった。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	41	16	0	12
「はい」が59．4%、「どちらともいえない」が23．2%、「無回答・非該当」が17．4%であった。自由意見は特になかった。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	42	12	2	13
「はい」が60．9%、「どちらともいえない」が17．4%、「いいえ」が2．9%、「無回答・非該当」が18．8%であった。自由意見は特になかった。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	42	13	2	12
「はい」が60．9%、「どちらともいえない」が18．8%、「いいえ」が2．9%、「無回答・非該当」が17．4%であった。自由意見では、「よくなるようにしてくれるけど、あんまり守ってくれない」、「お昼寝をなくしてほしいのに、なくしてくれないと言った」という声が聞かれた。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	33	11	4	21
「はい」が47．9%、「どちらともいえない」が15．9%、「いいえ」が5．8%、「無回答・非該当」が30．4%であった。自由意見は特になかった。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	◯非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	◯非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　　評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	◯非該当

カテゴリー1の講評

理念が日常の判断基準として職員に共有されている

事業計画に理念や目標を明記し、年度当初に職員へ説明する機会を設けている。加えて、月1回のミーティングにおいても目標に沿った話し合いを行い、理念の再確認を重ねている。日常の育成場面では、子ども一人ひとりの安心と安全を大切にするという考え方を、職員各自が判断の基盤として理解し、具体的な対応や声かけにつなげている。新任職員に対しても、法人全体の新人研修や年初ミーティングを通じて理念理解を進めており、理念や方針が継続的に共有される仕組みを整え、日々の実践の中で確認する流れを維持している。

目標を文書化し計画的に運営を進めている

組織としての目標は事業計画として文書化され、年度当初に職員へ共有している。計画は前年度の内容を基に学童クラブで作成し、法人統括責任者の確認を経て整理されている。年度途中においても、毎月のミーティングで目標の確認を行い、必要に応じて内容の修正を行っている。非常勤職員にも理解が及ぶよう、ミーティングのアジェンダへの記載や、月ごとの目標を掲示物として示すなど、日常業務の中で目標を意識しやすい工夫を行い、目標が単なる文書にとどまらないよう配慮している。

職員の意見を踏まえた意思決定が行われている

意思決定にあたっては、日常の活動の中で職員一人ひとりが意見を出し合い、全体で検討したうえで施設長が最終判断を行っている。重要な案件については法人統括責任者と相談しながら決定しており、判断の経過が明確である。決定事項は内容に応じて、施設長や担当職員から毎日のミーティングで共有され、保護者にはコドモンなどを用いて必ず伝えている。子どもに関わる内容は、帰りの会などを通じて分かりやすく説明している点も含め、情報共有の流れを整理している。

	カテゴリー2
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **6／6**

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	◯非該当
◉あり ◯なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	◯非該当
◉あり ◯なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	◯非該当

サブカテゴリー2（2-2）

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **5／5**

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	◯非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	◯非該当

カテゴリー2の講評

利用者・地域・制度動向を踏まえ課題を整理している

利用者の状況や職員の意向は日々の対話で把握し、月次ミーティングにおいても意見を出し合い、運営上の気づきを確認している。地域の福祉状況については、児童館や小学校との定期的な会合に参加し、地域関係者との情報交換を行っている。行政の動向や制度変更は、こども家庭庁や調布市の情報を確認し、受け入れ対象の拡大などの変化を踏まえて運営を検討している。こうした情報を基に、高学年児童の卒会支援や在籍増加への対応など課題を整理している。

前年度の振り返りを踏まえて事業計画を策定している

事業計画は前年度の運営を基に、施設長と常勤職員が振り返りを行い、改善すべき点や課題を整理したうえで策定している。振り返りでは、行事の実施状況や子どもの反応、職員の意見なども踏まえて検討している。整理した内容は法人統括責任者の確認を経て共有されており、クラブ単位の視点に加えて法人としての視点も踏まえられている。計画内容は全職員に配付し、ポイントを説明することで理解を促している。非常勤職員にも内容が伝わるよう配慮し、事業計画が組織全体で共有できる形に位置づけている。

実施結果を多面的に振り返り次年度運営につなげている

事業の実施結果については、行事終了後の振り返りや月次ミーティング、年度末の次年度計画に向けた話し合いの中で確認している。振り返りは実施の成否のみで判断するのではなく、子どもにとって意味のある経験であったか、育成につながっているかという視点で行っている。子どもの表情や意見も判断材料として取り上げ、その内容は事業報告書に記録している。振り返りを積み重ねることで、実践の成果や課題を整理し、次年度の計画に反映する流れを明確にしている。

3	カテゴリー3
	経営における社会的責任

サブカテゴリー1（3-1）

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	◯非該当

サブカテゴリー2（3-2）

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	◯非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	◯非該当

サブカテゴリー3（3-3）

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	◯非該当
◉あり ◯なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	◯非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	◯非該当

	カテゴリー3の講評
	法令や倫理の考え方を具体的に共有している 法令や倫理に関する基本的な考え方については、調布市や法人が把握した情報を基に研修を通して職員に伝えている。資料数が多い場合には、学童クラブ運営に関わる部分を抜粋し、単なる読み合わせにとどめず、具体的な事例やヒヤリハットを題材に話し合うことで理解を深めている。常勤職員は倫理規定に署名し、非常勤職員に対しても採用時や研修の場で個人情報保護や職員としての心構えを伝えている。日常業務の中でも、不適切になり得る行動や配慮不足につながる場面については都度注意喚起を行い、具体的な行動として整理しながら理解につなげている。 事実確認を重視した説明対応を行っている 利用者や関係者への説明にあたっては、まずその場にいた職員からの聞き取りや子どもの意見を含めた事実確認を行い、その内容を基にクラブとしての見解を整理している。説明は誤解が生じないよう電話で行うことを基本とし、必要に応じて内容を補足しながら状況を伝えている。重要な内容については施設長が必ず対応している。施設長が直接把握していない案件であっても、職員への聞き取りを十分に行ったうえで説明に臨んでいる。状況に応じて文書と口頭を使い分け、保護者が理解しやすい形で伝えるよう配慮している。 地域に開かれた運営と連携体制を整えている 学童クラブの活動内容や子どもの様子については、保護者への連絡や説明を通じて情報を伝え、関係者に対して内容を明らかにするよう配慮している。地域との関係づくりでは、児童館、小学校、放課後子ども教室、子ども家庭支援センター等との定期的な会合に参加し、情報共有を行っている。月１回の学校関係者とのミーティングや、学童・遊び場関係者による会合を通じて、地域ネットワークの一員としての役割を担い、スポーツ大会や交流の機会を通じて他校や地域とのつながりを広げており、地域の中で子どもを支える体制づくりに取り組んでいる。

4	カテゴリー4
	リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　5／5

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	◯非該当
◉あり ◯なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	◯非該当
◉あり ◯なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	◯非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	◯非該当

カテゴリー4の講評

安全・衛生・防災体制を計画と検証で整理している

安全・衛生・防災に関するルールやマニュアルを整備し、年間の訓練計画を事前に確認したうえで実施している。実施後には職員間で振り返りを行い、内容の見直しにつなげている。避難訓練は地震・火災・不審者対応を想定して実施し、終了後には子どもからの意見も聞き取ったうえで職員間で検討している。振り返り内容は箇条書きで整理し、次回の訓練計画に反映している。新任職員に対しても、過去の計画や実施報告を確認する機会を設け、OJTを通じて安全対応の考え方や具体的手順を理解できるようにしている。

安全や防災の考え方を職員全体で共有している

安全や防災に関する内容は、口頭での説明、資料の共有、訓練後の振り返りを通じて職員に周知し、理解を深めている。訓練の中で見つかった課題や改善点については、その都度振り返りの場で確認し、次の対応に具体的に結びつけている。理解度の差については、東日本大震災を経験した職員が当時の実体験を共有し、想定場面でどのような判断が必要であったかを具体的に話し合っている。実際の経験に基づく内容を共有することで、机上の確認にとどまらない形で、現場に即した対応への理解の統一を図っている。

緊急時対応と業務継続の役割分担を明確にしている

緊急時には、常勤職員の中からその日のリーダーを定め、書類の持ち出しや救急バッグの携行、保護者連絡に必要な物品の確保を行い、先頭に立って避難誘導を行う役割を担っている。想定外の事態にも対応できるよう、さまざまな状況を想定した訓練を重ね、子どもの命を守る判断を最優先とする考え方を共有している。訓練後には子どもも含めて振り返りを行い、避難に要した時間の計測結果や動線の課題を基に対応を確認している。現在は法人と連携し、今年度のBCPの整理と策定を進めており、業務継続の視点を踏まえた体制づくりにも取り組んでいる。

	カテゴリー5
5	職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1（5-1）

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	◯非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	◯非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	◯非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	◯非該当

サブカテゴリー2（5-2）

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	◯非該当

	カテゴリー5の講評
	経験に応じた研修機会を組み立てている 人材育成については、法人側で研修参加の考え方を整理し、常勤職員は段階的な学びにつながるよう計画的に参加を進めている。調布市の研修は基本編と経験者向けの応用編があり、経験年数や担当業務に応じた受講を進めることで職員のスキル向上につなげている。非常勤職員にも研修参加を積極的に呼びかけ、可能な範囲で出席できるよう日程調整や情報提供に配慮している。研修後は研修報告を作成し、内容を整理するとともに、非常勤職員にとっても「なぜその対応が必要か」を理解する機会として位置づけ、学びを組織内で共有している。 研修情報と学びの共有手順を整えている 研修案内は市から届いた情報をメールなどで全職員へ周知し、内容や必要性に応じて参加者を指名して受講を促す場合もある。受講後は研修報告書を施設長が確認し、法人統括責任者も内容を把握している。必要な事項は月1回のミーティングで共有し、学びが現場の育成や支援に結びつくよう具体的な場面を想定しながら整理している。特に実地研修では振り返りシートを記載し、参加先施設長のコメントを受けたうえで所属先に戻って本人面談を行い、理解や気づきを言語化する流れを設け、学びを定着させている。 振り返りを通じて現場の工夫を生み出している 職員の気づきや評価は、毎月のミーティングや研修参加直後の話し合いの中で共有し、必要な内容を整理している。障害児に関する研修では、心理士の話を他事例として学んだうえで、自クラブの子どもの姿を想定し、声かけや関わり方を試す行動につなげた例が挙げられている。実地研修でも他施設と自施設の良い点や課題を双方で共有し、得た内容を学童で活用する視点を持っている。研修機会を逃さないよう講師名や内容を把握し、次回参加の判断材料として整理するなど、学びを継続的な改善につなげている。

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

前年度は、在籍児童が15名増加したことにより、クラブ全体の人数構成が大きく変化した。また、制度変更により3年生以上の受け入れが可能となり、高学年児童の在籍が継続する状況が生じていた。こうした中で、受け入れを続けながらも、子どもが次の生活段階へ進む力をどのように育んでいくかが、運営上の重要な課題として整理された。高学年児童や保護者の中には、学童での生活を安心の場として捉え、引き続き在籍を希望する思いが見られ、卒会を前提とした関わり方が十分に共有されていない状況もあった。学童としては、在籍を維持することを目的とするのではなく、子どもが成長し、自立へ向かう過程を支える役割を担う必要があるととらえている。そのため、高学年児童が安心して卒会を迎えられるよう、段階的に背中を押す育成支援を組織的な取り組みとして位置づけ、前年度の重要課題として明確にしている。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

前年度は、2学期を中心に高学年児童に対し、留守番や鍵の管理といった卒会後の生活を意識した声かけを行っている。合わせて、親離れに不安を抱く様子にも目を向け、子どもの気持ちを尊重しながら関わりを重ねている。また、春と秋に高学年保護者との個人面談を実施し、子どもの現在の様子や来年度以降の生活について具体的に話し合う機会を設けている。これらの取り組みを通じて、3年生が中心となる場面が増えても、高学年児童が大きな違和感を示さずに過ごしている様子が確認されている。一方で、卒会に向けた明確な到達点や評価の基準を設定するまでには至っておらず、段階を踏みながら卒会へつなげていく必要性を職員間で共有している。前年度の実践を踏まえ、今年度は高学年児童の育成支援について、より計画的な整理を進めていく方向で検討している。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

学童クラブを家庭に代わる「第2の家庭」と位置づけ、子どもが安心して過ごせる生活の拠点とすることを、前年度の重要課題として掲げていた。保護者が就労などで家庭を離れる時間帯において、学童が生活の中心となることから、家庭に近い雰囲気の中で子どもを受け止めることを重視している。また、当該学童クラブは学校敷地内に設置されていない特性があり、保護者や子どもが意識的にこの学童クラブを選択している状況がある。そのため、学童クラブ内での関係づくりにとどまらず、地域や同一法人の学童とのつながりを通じて子どもの世界を広げる役割も担っている。地域交流や練習試合を通じて仲間意識を育み、他校を応援する気持ちや所属意識を深めることができると考え、「第2の家庭」を軸とした育成と連携を組織的な課題として位置づけて取り組んでいる。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

日常の関わりでは、学童クラブに「ただいま」と帰ってくる子ども一人ひとりの様子に目を向け、家庭での状況や心身の状態も意識しながら接することを心掛けている。人数が増加する中でも、家庭に近い雰囲気を保ち、安心して過ごせる関係づくりを続けている。スポーツ大会に向けた練習試合や交流の場では、子ども同士の関係が深まり、目標に向かって取り組む過程で意欲や連帯感が育まれている様子が見られている。こうした経験を通じて、子どもが楽しさを感じながら努力する姿が確認されている。また、児童館や地域との連携により、学童クラブが地域交流の場として機能し、高齢者や乳幼児を受け入れる機会も生まれている。卒会後も立ち寄ることができる拠点としての役割が広がっており、家庭と連携しながら子どもの安心と安全を支える場としての取り組みを継続している。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4／4
	評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している	評点（○○○○）	
	評価	標準項目	
	◉あり ◯なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	◯非該当
	◉あり ◯なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	◯非該当
	◉あり ◯なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	◯非該当
	◉あり ◯なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	◯非該当

サブカテゴリー1の講評

見学受け入れと丁寧な説明を通じたサービス情報の提供に取り組んでいる

わいわい学童クラブでは、利用を希望する家庭に対して、施設の生活や活動内容を理解できるよう、見学や説明の機会を設けている。見学については事前に連絡があれば随時受け入れており、実際に子どもたちが過ごしている様子や施設の雰囲気を直接見てもらうことで、利用後の生活を具体的にイメージできるよう配慮している。入会時にはオリエンテーションや説明の機会を設け、学童クラブでの生活の流れや基本的なルール、年間行事などについて説明を行っている。保護者会や個人面談の機会を通じて、継続的な情報提供にも取り組んでいる。

ICT活用と日常的な対面コミュニケーションにより継続的な情報共有に努めている

日常の連絡やお知らせについてはICTツールを活用し、保護者が必要な情報を随時確認できる体制を整えているほか、迎えの際の対面でのやり取りを通じて、その日の出来事や子どもの様子を伝えるなど、保護者とのコミュニケーションを大切にしている。上級生が下級生の面倒を見る関係性や、自然豊かな環境を活かした遊びなど、施設の特徴についても見学や日常のやり取りの中で伝えられている。情報発信については口コミなどに依る部分もあり、今後は地図情報サービスの活用などを通じて、施設の取り組みや魅力をより広く発信していくことが期待される。

2	サブカテゴリー2		
	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	8／8

評価項目1
サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	◯非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 障害のある子ども（発達面で特に配慮が必要な子どもを含む）の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	◯非該当

サブカテゴリー2の講評

新入会児への丁寧な説明と事前情報収集により円滑な利用開始に取り組んでいる

新入会児には学童クラブでの一日の流れや生活のルール、集団生活の約束ごとなどを丁寧に伝え、学童クラブでの過ごし方を理解できるよう配慮している。保護者に対しては、保護者会や説明の機会を通じて年間行事や長期休暇中の利用方法などについて説明を行い、学童クラブの運営や生活の見通しが持てるよう情報提供を行っている。新1年生や他施設から移行してくる子どもについては、保育園や関係機関から事前に情報を聞き取り、子どもの特性や生活状況を把握したうえで受け入れを行うなど、一人ひとりの状況に応じた育成が開始するよう準備している。

利用開始後の状況把握と継続的な説明を通じた安心できる利用環境づくりが期待される

利用開始後も、日常の関わりや保護者とのコミュニケーションを通じて子どもの様子を把握し、必要に応じて過ごし方や関わり方を調整している。また、家庭状況や成長段階に応じて利用方法を柔軟に検討するなど、個々の状況に配慮した対応に努めている。長期休暇前には保護者会を通じて利用方法や生活の流れについて説明を行うなど、利用者が安心して学童クラブを利用できるよう継続的な説明と情報共有を行っている。一方で、利用に伴う費用などの説明については整理の余地もあり、利用条件や費用に関する情報を分かりやすく伝えていくことが期待される。

	サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	10／10

評価項目1
子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 障害のある子ども（発達面で特に配慮が必要な子どもを含む）に対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	◯非該当

評価項目2
子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 障害のある子ども（発達面で特に配慮が必要な子どもを含む）については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	◯非該当

評価項目3
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	◯非該当

サブカテゴリー3の講評

子どもの状況の把握と職員間の情報共有を通じた育成支援に取り組んでいる

一人ひとりの子どもの状況を把握し、日々の育成に反映させるため、職員間での情報共有や話し合いの機会を設けながら支援に取り組んでいる。新入会児については、保育園や関係機関から事前に情報を聞き取り、子どもの特性や生活状況を踏まえたうえで受け入れを行うなど、学童クラブの生活を円滑に開始できるよう配慮している。日常の育成の中では、子どもの様子を職員が継続的に観察し、集団生活の中での関わり方や過ごし方について必要に応じて職員間で共有しながら対応を検討している。

配慮を要する子どもへの記録とミーティングを通じた対応検討を行っている

配慮を要する子どもについては日々の記録を残し、状況や変化を把握しながら関わり方を検討するなど、個々の状況に応じた支援が行われている。職員間では月1回の定例ミーティングを実施しているほか、日々の打ち合わせを通じて子どもの様子や育成上の課題について共有しており、障がい児や要配慮の子どもに関する対応についても話し合いの機会を設けている。また、ヒヤリハットなどの出来事についても記録し、必要に応じて共有することで安全面の振り返りや再発防止に活かしている。

施設間の情報共有を活かした育成体制の充実に期待する

第2学童クラブとの月1回のミーティングを通じてイベントや日常の情報交換を行うなど、施設間での情報共有にも取り組んでいる。一方で、子ども全体に対する目標設定や記録の整理については体系的な仕組みとしては十分に整理されていない面も見られることから、今後は記録方法や情報整理のあり方を検討し、一人ひとりの状況をより計画的に育成に反映できる体制づくりが期待される。

5	サブカテゴリー5		
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	◯非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	◯非該当

サブカテゴリー5の講評

個人情報管理とプライバシーに配慮した環境づくりに取り組んでいる

入会時の説明会では、個人情報や写真の取り扱いについて保護者に対して説明を行い、理解を得たうえで適切に管理する体制を整えている。日常の運営においても、個人情報の取り扱いには十分注意を払い、必要な範囲で共有することを基本としている。また、着替えなどの場面では場所を分けるなど、子どもの羞恥心やプライバシーに配慮した環境づくりが行われている。日常の関わりの中では、子どもの気持ちや意向を尊重することを大切にし、子ども本人と話し合いながら対応を進める姿勢を意識している。

子どもの意見表明と相互理解を大切にした権利擁護の実践に努めている

集団生活の中で生じる出来事についても、帰りの会などの機会を活用し、子どもたち自身が考え意見を出し合う場を設けることで、他者への配慮や互いを尊重する関係づくりにつなげている。障がいのある子どもや配慮を要する子どもについても、個別の状況を踏まえながら関わり方を検討し、すべての子どもが安心して過ごせるよう職員間で共有しながら支援を行っている。また、子ども同士が共に生活する中で、違いを理解し受け入れる経験を大切にし、互いを思いやる気持ちや尊重する姿勢が育まれるよう関わっている。

6	サブカテゴリー6		
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	◯非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	◯非該当

サブカテゴリー6の講評

事故対応マニュアルと登降所管理による安全確保に取り組んでいる

事故対応についてはマニュアルを整備し、職員が内容を確認しながら対応できるようにしているほか、日常の保育の中でも危険の予測や安全確認を意識した関わりを行っている。登降所時の安全確保にも配慮しており、学校から学童クラブへの登所については安全な経路を通ることや寄り道をしないことを子どもたちに伝えている。特に新1年生については入学直後の一定期間、学校まで迎えに行き集団で登所するなど、安全に配慮した対応が行われている。帰宅時には方面ごとに集団降所を行い、必要に応じて職員による見守りやパトロールも行っている。

職員間の連携と研修参加を通じた安全意識と支援力の向上に努めている

職員体制については、日々の打ち合わせや月1回のミーティングを通じて子どもの様子や支援上の課題について共有し、職員間の連携を図っている。職員同士のコミュニケーションは比較的良好で、風通しのよい職場環境の中で日常の振り返りや意見交換が行われている。また、市や法人が実施する研修にも参加し、障がい児対応など専門性の向上にも努めている。避難訓練や不審者対応訓練を実施し、関係施設とも連携しながら防災・防犯意識の向上に取り組んでいる。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

サブカテゴリー4		
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	29／29

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか等）に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 障害のある子ども（発達面で特に配慮が必要な子どもを含む）が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	◯非該当

評価項目1の講評

職員間で子どもの様子を共有しながら個々の状況を把握している

日々の育成にあたっては、非常勤職員が午後から勤務に入るため、育成開始前にその日の予定や前日の様子、気になる行動などを口頭で伝え合い、子どもの状況を共有している。非常勤職員は勤務日が一定ではないことから、育成中の様子だけでなく帰りの時間にも必要な内容を伝え合い、引き継ぎが途切れないように配慮している。育成日誌は常勤職員が毎日作成し共有も行っているが、勤務時間が異なる職員間では直接の口頭での引き継ぎを重視しており、日々の様子を確認しながら援助を行うようにしている。

班活動や役割を通して異年齢で関わる機会を設けている

異年齢の班を編成し、おやつ当番や準備、掃除など日常の役割を班ごとに担当している。おやつの時間や集団ゲーム、夏休みの勉強時間なども班単位で活動しており、学年の異なる子ども同士が関わることができるように工夫をしている。4年生以上の利用もみられるが、活動の中では3年生がリーダー役となって進行する場面があり、上級生が下級生に声をかけたり、やり方を伝えながら一緒に進める様子も見られている。年齢の違う子ども同士が役割を通して関わることで、双方が活動に参加しやすい流れがつくられている。

子ども同士のトラブルの場面で気持ちを整理できるよう援助している

子ども同士のトラブルでは職員が仲立ちし、言葉を代弁しながらやり取りを援助している。言い合いの場面では見守りを基本とし、状況に応じて声をかけたり介入し、低学年の子どもには話を聞きながら関わるようにしている。加配児については支援内容を日誌に記録し、常勤職員が内容をまとめて翌日の職員が把握できるように配慮している。記録は市への提出にも活用している。要配慮児や障害のある子どもについては、加配が付かない場合でもフリー職員が見守りに入るなど状況に応じて対応している。

2 評価項目2
日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要となる基本的生活習慣を習得できるよう、援助している	◯非該当

評価項目2の講評

遊びや生活の選択肢を広げながら子どもが主体的に過ごせる環境を整えている

室内では本や玩具、伝統遊びや手作りの遊び道具なども用意し、昔からある遊びの中からも楽しさを見つけられるようにしている。宿題は自由としており、迎えが5時以降の子どもは勉強時間や本読みの時間を取り入れている。敷地内の広い庭の利用は時間が限られているが一輪車やボール遊び、鬼ごっこなどを楽しんでいる。職員は各所で見守り状況に応じて遊びに入るが、全体が見える位置を意識し、時間を区切りながら活動を進めている。漫画や玩具の希望は子どもの希望を聞く機会を定期的に設けるようにしており、市からの提供も取り入れている。

集団活動の中で子どもが役割を持って関われるよう援助している

班活動や帰りの会の当番などを通して、子どもが集団の中で役割を持って参加できるような機会づくりをしている。帰りの会では3年生が中心となって進行を担う場面があり、子ども同士で声をかけながら活動を進めている。行事や集団活動では、職員がすべてを進めるのではなく、子どもが前に立つ機会を設けている。スポーツ大会などではキャプテンや副キャプテンを決めることもあり、活動の中で役割を経験できるようにしており、集団の中で自分の担当を持ちながら参加する流れをつくっている。

生活のルールや過ごし方を理解できるようにしている

1年生や新しく入会した子どもにはオリエンテーションを行い、学童探検を通して部屋の使い方や本の場所、遊びのルール、クールダウン室の使い方などを伝えている。ケガをしないで楽しく過ごすことを前提に、外遊びでは木に登らないなどの約束も確認している。日常の生活の中でも必要に応じて声をかけながら過ごし方を伝え、分からないことがあればその都度確認できるようにしている。上級生が新しく入った子どもに遊び方や場所の使い方を教える場面もあり、生活の流れやルールについて無理なく理解できるように努めている。

3 評価項目3
日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	◯非該当

評価項目3の講評

季節や生活の節目を感じられる行事を実施している

年間事業計画に基づき、季節や生活の節目に合わせた行事を取り入れており、進級お祝い会、お楽しみ会などを計画し実施につなげている。夏にはスイカ割りや水鉄砲大会など季節を感じられる活動を取り入れ、誕生日会では集団遊びやゲーム、質問コーナーを行い、誕生日カードやキャンディレイを渡すなど日常とは異なる時間をつくっている。1日育成の日や長期休みにはバス遠足を行い、動物園などへ出かける機会を設けている。クリスマスにはケーキ、おでんなど特別なおやつを取り入れるなど、行事を通して日常の活動に変化を持たせている。

子どもが行事の準備や運営に関わる機会を設けている

夏祭りやハロウィンパーティでは、3年生が当番として中心となり、店の内容や飾り、担当などについて子ども同士で話し合いながら準備を行い実施することができている。1・2年生はその様子を見ながら参加し、上級生の役割を身近に感じられる機会となっている。3月の進級お祝い会では、ダンスやソーラン節、こま、なわとび、一輪車などをチームに分かれて披露し、準備から発表まで子どもが中心となり行う行事となっている。好きな遊びや活動を中心に異年齢で集まる場面も多く見られており、行事を通して学年を越えた関わりが生まれている。

保護者や地域とつながりながら行事を実施している

行事の実施にあたっては、持ち物や活動内容について事前に連絡を行い、保護者が準備しやすいように配慮している。春には親子交流会を実施し保護者と子どもが一緒に遊びを楽しむ機会を設けている。保育園と合同で行うオータムフェアでは地域の人も参加し、保護者が手伝いとして関わる場面も見られている。近隣への食券配布なども行い、地域とのつながりを意識した運営となっており、行事を通して保護者や地域が学童の活動に関わる機会をつくっている。

4 評価項目4
子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	◯非該当
◉あり ◯なし	4.【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	◯非該当

評価項目4の講評

子どもが安心して過ごせる関係づくりを行っている

学童には4校（支援学校含む）から子どもが通っており、最も多い小学校からは約70名が利用している。学校が異なる子ども同士でも一緒に遊ぶ姿が見られており、学童で新しい友達関係が育まれている。1年生については入会当初、ぬりえや玩具など好きな遊びから入れるようにし、保育園時代の友達同士で過ごす様子も見ながら職員が遊びの提案や他の友達との関係づくりを援助している。入学式前から学童の利用が始まるので子ども同士の関係づくりができるよう配慮しており、入学後は2週間程度学校まで迎えに行くなどして生活の立ち上がりを支えている。

生活の見通しを持って過ごせるよう環境を整えている

日々の育成では1日の流れは大きく変えずに過ごせるようにしており、イベントの時間などはホワイトボードに示して子どもが確認できるようにしている。長期休みを含む1日育成の日は時間割を掲示し、その日の活動内容や生活の流れを事前に分かるようにしている。活動の切り替えのタイミングが分かることで、次に何をするかを子ども自身が意識しながら過ごせるように配慮している。予定の変更や特別な活動がある場合も掲示を通して共有している。また、帰宅時間が遅い場合には学校へ連絡を行うなど、日々の状況に応じた対応を行っている。

活動内容や場の使い分けを通して安心して過ごせるようにしている

育成室は2つあり、そのうち1つはクールダウンや本を読むためのスペースとして使用し、活動の状況や子どもの様子に応じて過ごす場所を選べるようにしている。学校内にある放課後の活動場所「あそビバ」と連携し、年4回、遊びや工作、不審者対応訓練などを合同で実施している。4月には「あそビバ探検」を行い、子どもたちが場所や利用の仕方を確認できる機会を設けている。「あそビバ」は登録すれば利用できるため、連携を通して、子どもたちが活動の選択肢を広げながら、高学年に向けて過ごし方の幅を広げられるようにしている。

5 評価項目5
子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 障害のある子ども（発達面で特に配慮が必要な子どもを含む）や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関（教育機関、福祉関係機関、医療機関等）と連携をとって行っている	◯非該当

評価項目5の講評

学校や関係機関と定期的に情報共有を行っている

毎月、学校・あそビバ・児童館など関係機関が集まり、施設長が参加して活動内容や子どもの様子などについて情報共有を行っている。また、学校とは面談の機会を設け、気になる子どもの様子やケガなどについて連絡を取り合うようにしている。学校行事への参加やスポーツ大会の練習で体育館を利用することもあり、必要な際には電話で依頼を行っている。学校とのやり取りでは副校長が窓口となり、日常的な連絡や調整を行っており、学童クラブでの生活が円滑に進むよう、学校との連携を継続している。

学校生活に課題がある子どもへの受け止めと関わりを行っている

学校を休みがちな子どもについて、学童は利用できることを保護者に伝え、安心して過ごせる場として受け入れるようにしている。すべての子どもに対して、日々の育成においていつもと違う様子が見られた場合には声をかけ、体調や気持ちの変化を確認するようにしている。学校や家庭では話しにくいことを学童で話せる子どももいることから、日常の関わりの中で気持ちを受け止めることを大切にしている。職員は先生という立場とは異なる関係性を意識し、呼び方を工夫するなど、子どもが話しやすい距離感で関わるようにしている。

支援学校や関係機関と連携しながら子どもの状況を把握している

支援学校とは年数回、公開日などに訪問して子どもの様子を確認する機会を設けている。保護者が支援学校と共有している日誌を学童でも閲覧することが許可されており、学校での状況を確認し把握できるようにしている。通学ではバスを利用しているため、バス停まで迎えに行く対応を行っており、降車が難しい場面などについては担任と面談を行いながら対応を検討している。放課後等デイサービスも併用している子どもについても、関係機関と情報を共有しながら子どもの状況の把握に努め学童での生活を支えられるよう配慮している。

6 評価項目6
子どもがおやつを楽しめるよう援助している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	◯非該当

評価項目6の講評

おやつの時間を通して生活のリズムや交流を支えている

おやつの提供では、放課後の活動に必要なエネルギーを補うとともに、学校から学童への気持ちの切り替えや安心して過ごせる時間につなげることを目的としている。また、子ども同士が一緒に食べることで交流が生まれ、当番活動や片付けなどを通して生活習慣や役割意識を育む機会にもなっている。くじ引きやおかわりジャンケンなどを取り入れ、子ども同士で楽しみながら食べられるような工夫もみられる。さまざまな食材や季節・行事に合わせた内容に触れることで、食への関心や経験の広がりを支える役割も担えるよう努めている。

子どもの状況に合わせたおやつ・食事の提供方法を工夫している

長期休みを含む1日育成では、お弁当持参または配食サービス利用を保護者が選択している。冷やす必要のあるものは冷蔵庫で管理しているが、保冷剤の持参を基本とし保護者に依頼している。終業式や始業式など昼食が必要な日はレトルト食品を温めて提供する取り組みを行っており保護者、子どもの両方から好評を得ている。食物アレルギーのある子どもについては持ち込み対応とし、預かった食品を別皿で用意し、保護者と連携しながら他児と同じように楽しめるよう配慮している。提供時は職員が確認しながら対応し、誤食防止に努めている。

子どもの希望を取り入れながらおやつを提供している

毎日のおやつは3種類を基本とし、メインをやや大きめにしてほかの2つと組み合わせ、甘いもの・塩見のもの・中間の味などバランスを考えて提供している。できるだけ添加物に配慮し、身体にやさしい食材を取り入れるよう工夫するとともに、季節や行事に合わせた内容も意識している。近隣のコンビニの協力により、おでんや肉まんの機材を運び込みあたたかいものを提供する機会もあるなど子どもたちの希望から実現させることができており、楽しみにつながっている。当番活動やごみ捨てのルールなども取り入れ、生活づくりの視点を大切にしている。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	◯非該当

評価項目7の講評

日常の声かけや環境整備を通して健康と安全への意識を促している

出欠確認の際には子どもの様子を確認し、体調の変化が見られる場合や咳をしている場合には声をかけ、必要に応じてマスクを渡す、熱をはかるなどの対応をしている。手洗いの声かけや換気、机の消毒、抗菌対応なども日常的に行っている。外遊びでは見守りを行い、ケガの予防につながるよう全体への声かけを行っているが、外遊びでのケガについては応急処置を行い、首から上のケガなど状況に応じて保護者へ連絡し、必要時は受診につなげている。体調不良時にはクールダウン室や事務室で休めるようにしている。

保護者や関係機関と連携しながら子どもの健康状態を把握している

現在、医療的ケアが必要な子どもは在籍がなく、薬の預かりも行っていないが、必要に応じて保護者から診断書の写しを預かる体制を整えている。次年度入会予定の子どもについては、人数に応じて保育園への訪問や電話で情報を確認し、1年生については事前に状況を把握するようにしている。児童館から利用する子どもについても事前確認を行い、必要に応じてこちらから訪問して情報共有を行っている。入会前から関係機関と情報を共有し、安心して受け入れられる環境づくりに努めている。

8 評価項目8
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ◯なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	◯非該当
◉あり ◯なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	◯非該当
◉あり ◯なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	◯非該当
◉あり ◯なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	◯非該当

評価項目8の講評

ICTツールと対面のやり取りを通じた日常的な情報共有に取り組んでいる

日常の連絡やお知らせについてはICTツールを活用し、学童クラブからのお便りや連絡事項を保護者が随時確認できるようにしている。また、お迎え時にはその日の出来事や子どもの様子、小さなケガや友達関係での出来事などについて直接保護者に伝えるよう心がけ、日常的なコミュニケーションを通じて信頼関係の構築に努めている。保護者との意見交換の機会としては、年2回の保護者会を実施しており、夏休みなど長期休暇の利用方法や学童クラブでの生活の様子について説明を行っている。

保護者会や個人面談、行事を通じた保護者との連携強化に努めている

個人面談の機会も設け、家庭での様子を聞きながら子どもの状況を共有し、日々の育成に反映できるよう取り組んでいる。行事の際には、子どもたちの活動の様子を写真やスライドショーなどで紹介するなど、学童クラブでの生活を保護者が具体的に理解できるよう工夫も行われている。保護者が学童クラブの行事や地域の催しに参加・協力する機会もあり、地域行事やイベントの場面で保護者との関係づくりが図られている。今後も、保護者との日常的なコミュニケーションを大切にしながら、より円滑な連携体制の充実に取り組んでいくことが期待される。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点（〇〇）		
	評価	標準項目	
	◉あり ◯なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	◯非該当
	◉あり ◯なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	◯非該当

評価項目9の講評

地域行事への参加を通じた地域社会との交流と関係づくりに取り組んでいる

地域の関係機関や近隣施設と連携しながら、子どもが地域社会の中で多様な経験を積むことができるよう取り組んでいる。地域の児童施設や関連機関が主催する行事に参加する機会を設けており、地域の祭りなどでは子どもがゲームコーナーの運営を手伝うなど、地域の人々と関わる体験を通じて社会とのつながりを感じられるよう工夫している。また、地域施設が開催する季節行事などにも参加し、幼児や小学生、地域住民など幅広い世代との交流の場としている。こうした活動を通じて、子どもが地域の一員として他者と関わるように取り組んでいる。

共同プログラムや情報共有を通じた地域施設との連携体制の構築に努めている

近隣の児童施設や放課後活動の場と共同で交流プログラムを実施しており、スポーツ活動やレクリエーション、交流会などを通じて他施設の子どもとの関わりを広げる取り組みが行われている。共同活動は、子どもが普段とは異なる環境や仲間と関わる経験となり、社会性や協調性を育む機会となっている。安全面に関する取り組みとして、防犯や災害を想定した訓練を関係施設と協力して実施するなど、地域全体で子どもたちの安全を守る意識づくりにも取り組んでいる。学校や地域の関係機関とは定期的に情報共有の機会を設け、連携を図っている。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-2	事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している
タイトル①	職員の判断力を高めるため対話と振り返りを重ねている	
内容①	日々の育成や運営において、職員一人ひとりが状況に応じて考え、判断できるようにすることを重視し、ミーティングや日常の対話を通じた振り返りに力を入れている。理念や方針は単なる共有にとどめず、具体的な場面を取り上げながら「なぜその対応を行ったのか」を示し、判断の背景を確認する機会として活用している。研修で得た知見や他施設の事例についても、学童の実情に照らして話し合い、現場でどのように活用するかを整理している。経験の浅い職員や非常勤職員も含め、判断の根拠を共有しながら育成を進める姿勢が組織として定着している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	放課後の時間が楽しい経験となるよう活動を工夫している	
内容②	放課後の時間が安心して楽しく過ごせるものとなるよう、おやつやイベント、日々の遊びの内容などを工夫している。コマやけん玉など学童ならではの昔遊びも取り入れ、子どもができることを増やしながら過ごせるようにしている。活動の内容に大きな制限を設けず、子どもが自分で選びながら過ごせる環境を大切にしており、特に2年生以降の成長段階を意識しながら、放課後の時間が良い経験として積み重なるよう援助している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル③	地域行事や交流活動を通じた社会参加の機会づくりに取り組んでいる	
内容③	地域で開催される行事や催しに参加する機会を設けている。活動の手伝いや交流に関わることで、地域の人々と自然に関わる経験が生まれており、子どもたちが地域の一員として社会とつながる感覚を育む機会となっている。また、近隣の児童施設や放課後活動の場と共同で交流プログラムを実施しており、スポーツ活動やレクリエーションなどを通じて他施設の子どもとの交流が図られている。普段とは異なる環境や仲間と関わる経験は、子どもたちの社会性や協調性を育む機会となっている。地域全体で子どもたちの安全を守る意識づくりにも取り組んでいる。	

《事業所名: 調布市立わいわい学童クラブ》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	異年齢の子ども同士の関わりを大切にした育成環境づくりに力を入れている。
	内容	日常の生活や遊びの中で、上級生が下級生の面倒を見る場面が自然に生まれており、子ども同士が互いに関わりながら学び合う関係性が育まれている。学童クラブには複数の学年の児童が在籍していることから、遊びや行事、班活動などを通じて異年齢で協力する機会が多く設けられている。上級生は下級生を気にかける経験を通して責任感や思いやりを育み、下級生は年上の子どもたちの姿を見ながら学童生活の過ごし方や遊び方を学んでいくことにつながっている。
2	タイトル	広い庭を活かし、学校ではできない遊びの機会を確保している
	内容	敷地内には広い庭があり、自然に触れながら過ごせる環境となっている。虫網を使った虫取りなど、学校では実施しにくい遊びを日常的に行うことができ、セミやカブトムシ、かなへび、ちょうなど季節に応じた生き物との関わりも見られている。夏場は暑さ指数や光化学スモッグ情報など市からの連絡を確認しながら外遊びの可否を判断し、安全に配慮した活動を行っている。
3	タイトル	理念を軸に判断と育成を組織的に積み重ねている
	内容	理念や方針は事業計画への記載や年度当初の説明、月１回のミーティングを通じて職員に繰り返し伝えられており、日常の育成や判断の場面で意識されている。目標は前年度の振り返りを基に整理され、職員の意見を確認しながら施設長が判断する流れが共有されている。法令や倫理、安全管理、研修についても、研修や訓練、振り返りの機会を通して具体的な事例と結び付けて伝えている。高学年児童の卒会支援や「第2の家庭」を軸とした地域との関係づくりなど、状況の変化に応じた課題を組織として整理し、実践を重ねながら運営している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	児童状況の記録と育成目標の整理による計画的な支援体制の構築に期待する
	内容	配慮を要する子どもについては日々の記録が行われているものの、全ての子どもについて継続的に状況を記録し共有する仕組みは十分に体系化されているとは言えない面がある。また、子どもの成長や課題を整理し、育成の目標や支援の方向性を明確にする取り組みについても、職員個々の判断に委ねられている部分が見受けられる。今後は、日常の関わりの中で把握した子どもの様子や育成上の課題について、記録の方法や共有の仕組みを整理し、一人ひとりの状況をより計画的に育成に反映できる体制づくりが望まれる。
2	タイトル	子ども一人ひとりへの丁寧な関わりを継続することを課題としている
	内容	多くの子どもを受け入れているなかで、支援級在籍児の学校への迎えやバス停への送迎など、常勤職員が個別対応に時間を要する場面がある。安全確保を優先しながら運営しているが、職員が分かれて対応する時間帯には子どもとの交流が減らないよう意識して関わっている。今後は職員体制が整うことで、一人ひとりの様子をより細かく見ながら遊びや関わりを広げていくことを課題としている。
3	タイトル	取り組みのねらいや振り返りの整理を進めていくことが望まれる
	内容	前年度の重要課題や事業計画は、日々の実践や振り返りを基に設定され、具体的な取り組みへとつなげられている。高学年児童の卒会支援では、段階的な関わりを通じて子どもの様子を丁寧にとらえてきた経過が見られる。一方で、取り組みを通してどのような状態を目指していたのか、どの視点を基準として振り返ってきたのかについては、文書上で十分に整理されていない部分も見られる。職員間での共通理解をさらに深め、次の計画へ結びつけるため、実践の積み重ねを言語化し、成果や課題の確認方法を明確にすることが望まれる。